

- 次 第 -

場所 : 経団連会館 9 階 906 号室 明治の間  
(東京都千代田区大手町)

1. 開会
2. 議長選出
3. 新規加入会員紹介
4. 定足数の確認
5. 第1号議案 平成17年度役員
6. 第2号議案 平成16年度活動報告
7. 第3号議案 平成16年度収支決算報告・監査報告
8. 第4号議案 平成17年度活動方針
9. 第5号議案 平成17年度収支計画

## 第2号議案

## 平成16年度活動報告

	活動方針	活動報告
1	<p>業界の外に耳を傾け、時代の動向に注視しながら、各会員にメリットのあるプロジェクト・テーマを選択し、各プロジェクト分科会において掘り下げ、具体的な提案を試みる。(平成15年度からの活動を継続)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人員輸送 既にあるビジネスモデルを検証しながら、空の足として市民レベルで利用できるヘリコプター事業を提案していく。</li> <li>2. 物資輸送 これまでの大型工事事業ではなく、大きく変化していく物流システムにおける新たなソリューションとしての活路を検討し、提案していく。</li> <li>3. ドクターヘリ ヘリコプターによるプレホスピタルケアの意義・効果について、ひろく社会の認知・理解を求め、ドクターヘリの普及を求めていく。</li> <li>4. ヘリポート ヘリコプター事業が市民レベルでの認知・理解が得られる為にも、都心を中心としたヘリポートの利用価値・意義について研究し、社会の認知・理解を得られるよう、ひろく働きかける。</li> <li>5. IFR 将来のヘリコプター事業の発展拡大を左右する重要なテーマとして、GPS や国土交通省多目的運輸衛星(MTSAT)を利用したヘリコプターの計器飛行について、ひろく知り、そのありかたについて当協議会としての意見を国へ具申ししていく</li> </ol>	<p>各プロジェクト分科会による具体的なヘリコプター利用への検証を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 旅客輸送 (人員輸送を改め) 東京最都心屋上ヘリポート(アークヒルズ屋上ヘリポート)の活用に向けて検証を進め、シミュレーション等を検討いたしました。が計画の実行にはいたりませんでした。今後も、是非都心からの輸送手段として検討が進められるように働きかけていくべきと考えます。</li> <li>2. 貨物輸送 (物資輸送を改め) ヘリコプター運航者、需要と市場の開発、販売に関する仕組みについてそれぞれ適宜レビューを進めました。更に需要の調査を進めることにより新しい需要の喚起を目指すとともに、ヘリの幅広い理解を求めべく働きかけていくべきと考えます。</li> <li>3. ドクターヘリ 厚生労働省が進める「ドクターヘリ」事業にとらわれず、救急医療におけるヘリコプターの有効性を訴える PR 活動に注力していききました。 ロータリークラブ、ライオンズクラブ等での救急医による勉強会、講演会を実施、また、航空医療学会にてブースをもち展示を行いました。</li> <li>4. ヘリポート アークヒルズ屋上ヘリポートの存続及び活用法につき検証を進めてまいりました。本年度は、シミュレーションを実施することができまらなかったが、是非近々に実施して、その利便性を皆様にアピールできたらと考えております。</li> <li>5. IFR IFR 研究会での進捗状況をベースに勉強会を行いました。また、米国での GPS による IFR の実態を調査、本邦において活用できるかどうかを資料を入手して検証を進めました。</li> </ol>
2	<p>協議会の役割を明らかにした上で、他の団体との相互交流に努め、協議会活動の意義を深める。</p>	<p>当協議会の果たす最大の役割は、ヘリコプターをもっと身近に利用してもらう人々の数を増やすことにあります。そのためにもヘリコプター業界外への働きかけを積極的に行い、その結果をヘリコプター業界内の各団体との交流において生かしていければと考えております。</p>

第 4 号議案

平成 17 年度活動方針

	活動方針	活動計画
1	<p>我が国におけるヘリコプターの活用が普及する為の施策を引き続き検討する。</p> <p>1. 旅客・貨物輸送分科会 日本のヘリコプターにおける輸送事業の現状分析を行い欧米の場合と比較検討する。</p> <p>2. ドクターヘリ分科会 ドクターヘリ導入の促進を図る為に右記の活動を行う。</p> <p>3. ヘリポート分科会 首都圏におけるヘリポートの実態調査を実施する。</p>	<p>1. 旅客・貨物輸送分科会 旅客・貨物ともに限られたエリアでのみ事業化されているが、欧米のケースと比して著しく遅れているので、其の原因の探り改善に努める。機体 1 機当たりの年間飛行時間は欧米の 1/3。時間当たりの飛行コストも数倍であると言われている。</p> <p>2. ドクターヘリ分科会 (ア) ドクターヘリの社会的認知度を高めるための具体的な行動としてドクターによる講演活動を継続して行う。 (イ) 病院間搬送にも航空法第 81 条の 2 を適用し、ドクターヘリの運航に関する規制を更に緩和する事を提言して行く。 (ウ) ドクターヘリの財源。費用負担の問題についてベストな姿形について議論を深め、メールマガジン等で提言して行く。</p> <p>3. ヘリポート分科会 陸上ヘリポート(屋上ヘリポートを含む)に就いて、各所有者宛に次の通りアンケート調査を実施する。</p> <p>1) 航空法に定める基準に適合しているか? 2) 将来、改修または変更する意思はあるか? 3) ヘリコプター事業促進協議会がコンサルタントとして指導する。</p> <p>6月 理事会において協議会各社の意見集約 7月 理事会において承認 8月 発送 9月 集計&amp;結果報告</p>

	<p>4. IFR 分科会</p> <p>当局と噛み合った議論が技術的な事項においても出来る様、啓蒙活動を行う。</p>	<p>下期 アンケート回答済各社に働き掛けを行う。</p> <p>4. IFR 分科会</p> <p>航空振興財団の「ヘリコプターIFR 等飛行安全 研究会」他におけるヘリコプターIFR 化の動きに関し、適宜情報収集を行う。又行政懇談会を通して航空局との意見交換を行う。</p>
2	<p>協議会の役割を明らかにした上で、他の団体との相互交流に努め、協議会活動の意義を深める。</p>	<p>当協議会の果たす最大の役割は、ヘリコプターをもっと身近に利用してもらう人々の数を増やすことにあります。そのためにもヘリコプター業界外への働きかけを積極的に行い、その結果をヘリコプター業界内の各団体との交流において生かしていければと考えております。</p>